

ベフラン液剤 25 失効後のカンキツ貯蔵病害対策

果樹試験場 副主査研究員 直川 幸生

【要約】

ベルコートフロアブルは2,000倍でベンレート水和剤と混用することで各剤の単用よりも緑かび病に対して高い効果を示した。また、ベンゾイミダゾール系薬剤（ベンレート水和剤、トップジンM水和剤）の耐性菌に対しても効果があり、ベフラン液剤25の代替薬剤として有望と考えられた。

【背景・ねらい】

カンキツ貯蔵病害に対する基幹防除剤であるベフラン液剤25が2025年10月に登録失効予定であり、代替薬剤の探索が求められている。そこで、同系統剤であるベルコートフロアブルを候補薬剤として、主要な貯蔵病害である緑かび病に対する防除効果を検討した。

【成果の内容・特徴】

- 1) ベルコートフロアブル、ベフラン液剤 25 とともに、単用散布は緑かび病に対する防除効果が不十分であった（図 1）。
- 2) ベンレート水和剤にベルコートフロアブルを混用することで、各剤の単用と比べて高い効果を示した。また、ベルコートフロアブルの濃度については2,000倍で実用的な効果が期待できた（図 1）。
- 3) ベルコートフロアブルとベンレート水和剤の混用処理は、ベンゾイミダゾール耐性緑かび病菌に対しても効果があった（データ略）。

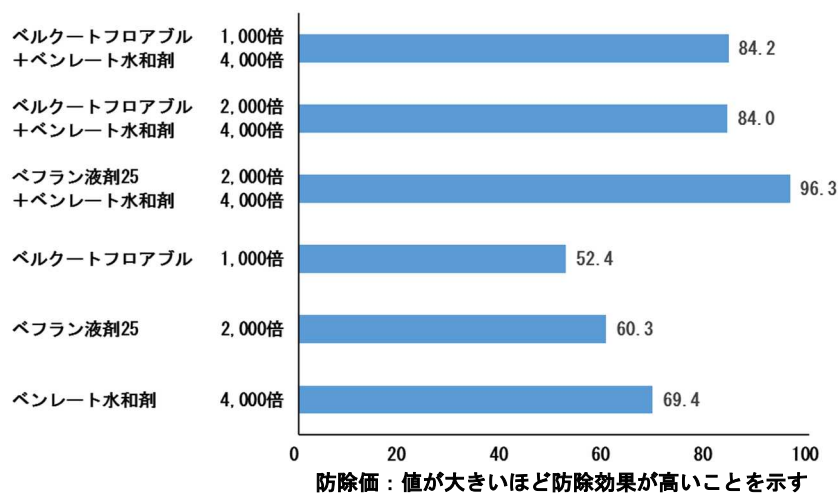


図 1 各薬剤の緑かび病に対する防除効果（2023年）

供試樹：興津早生 28 年生、1 区につき 3 樹を供試、調査方法：薬剤散布 16 日後に 1 樹あたり約 100 果を収穫し付傷処理した。果実を温室で保管し、貯蔵 32 日後までの累積発病果数を計数し、発病果率から防除値を算出した。